

私は.....

岡山県津山高校出身の藤島敬史。知能情報工学科2年生です。2年生になり、専門の授業に日々頭を使っています。

最近の日課として、夕方まで勉強、夕方以降はバイトといった毎日を送っています。また心の支えとなる友達も増え、とても楽しい大学生活を送っています。

サークル活動としては大学放送研究部(メガフェブス)の部長としてサークルを引っ張っています。

主な活動としてはFM徳島でのラジオ放送(番組名:「大学生でいこう」毎週金曜22:55、番組名:「ブルーティークISS」毎週土曜20:55)を放送しています。こういった外部との連携をとり、将来の仕事に役立てられたらと思っています。また後輩や先輩がとてもおもしろく、毎日が楽しくていす。

なぜ知能情報の道を選んだのか?

もともと自分は鉄道会社への就職を夢みており、企画営業やCTC(列車集中制御装置)、鉄道のダイヤを組むような仕事に関わりたいと思ったことが始まりでした。分野としてはやはり情報系の学科に行くべきなのではないかと



ふじしま たかし 藤島 敬史 工学部知能情報工学科2年

My Campus Life

「有言実行」



高校の先生に話を持ちかけられ、歴史のある徳島大学工学部に進学することを決心しました。入学後、大きな壁としてコンピュータを扱う上で必要な「言語」に苦戦しています。これも自分の夢実現のため頑張っています。

大学のイメージは入学前と今では差があった・・・?

「大学は自由なところ」と高校時代友達の間で言われていたので、入学当時は遊ぶことしか考えていませんでした。いざ大学生活が始まって振り返って見ると「大学は自分で行動しなければ何も得られない場所」だと思いました。自分で時間を組み、自分でバイトなどの社会勉強を試み、自分で健康管理をしないとけません。つまり自己管理をしないと大学生活が楽しいめなれないということを一番感じました。

大学生活は・・・?

勉強も大切ですが、やはりサークル活動やその他自分がエンジョイできるような場がなければ楽しい大学生活は送れません。自分はサークル活動としてメガフェブスに所属していますが、そこで他の

学科の学生と交流し、新しい人脈を広げています。

今後は・・・?

自分の就職志望は決まっていますので、後はどのような資格があれば見込みがあるのかを調べ、学科の勉強以外に独学で必要な資格が取得できるように頑張っています。と思っています。また3年生になるとインターンシップが始まるので積極的に参加し、社会勉強をしていきたいと思っています。

最後に一言・・・

自分の座右の銘として「有言実行」という言葉があります。何事も思うことがあったらやってみる!!これが大学生活を楽しむべき大きなキーワードなのではないでしょうか? 学生ならばやるべきことはたくさんあります。ならばやるしかないでしょ!! 常に心の中はポジティブに!! 積極的に行動に移すことがとても大事です。何か目標を立てて日々生活をしてみてはどうでしょうか? 小さなことでもいいです。さあ今どうしようか悩んでいる人にもう一度伝ええます・・・ 「有言実行!!」

徳大生 大活躍! 「取材」

総合科学部人間文化学科2年

田村 里絵

たむらりえ

地域と共に歩む 徳大生の活躍 県産の間伐材を使った商品作り



大学に入学してすぐに、先輩に誘われて『生協学生委員会』に参加した田村さんは、環境部局に所属し、キャンパスの清掃などのボランティア活動を続けています。「仲間がいて楽しいし、とても良い経験をさせてもらっています」という田村さんたちに「昨年、県産の間伐材を使った商品開発の話が舞い込んできました。

これは、平成21年に三好市の『樹恩ネットワーク』と『吉野川(三好)流域林業活性化センター』が、地域資源の掘り起こしや活用による新たな産業創出のために立ち上げた「人・ふるさと(地方)みんなのいきいきプロジェクト」として設置した「樹の紙いきいきプロジェクト」の構成員として、大学の食堂で間伐材の割り箸を使っている生協が参加していたことがきっかけとなりました。

『樹の紙いきいき・・・』は、三好地域で木工業を営む(株)ビツグウィルが開発した木材をスライズした『樹の紙』という紙のようにしなやかな製品を元に、障害者とネットワークを組み、森林業と福祉を連携する産業界を目指すものです。生協では学生たちがこうした活動を通じて、地域や障害者の現状や理解を深めていくと考え、学生たちを商品開発にも参加させました。

昨年12月、プロジェクトの会議に参加した田村さんは、アイデアを考へておくようにと依頼された環境部局の学生が参加した2回目の会議ではバッグやファイルなど様々なアイデアを出し合いました。その中で田村さんの『しおり』が採用されたのです。実は樹の紙を使ったしおりはすでに商品としてありましたが、田村さんのアイデア



アは写真のようにクリップ形式のもので、それぞれに森にちなんでかわいい動物が描かれています。この絵も田村さんが描いたものです。田村さんは中学校の時から絵が好きで、アクリル画で賞を受けたこともあるそうです。

「このたびの活動でいるんならとつながりを持って、素晴らしい経験をさせていただきました。これを他の学生たちにも伝えていけたらいいなと思います。」

商品は昨年7月末に完成。8月より徳大の生協で販売されています。またこの成果は徳島新聞でも紹介され反響を呼びました。

田村さんは国際文化コースに学び、ヨーロッパの比較文化に興味を持ち、

「将来はアナウンサーになるのが夢で、外国から見た日本のことを伝えられたら」と抱負を語ってくれました。

読者の言葉

親から離れて生活をしている学生の生活ぶりやサークル活動等をもっと多く紹介してほしいです。

回答

ごもっともなご意見と承知しています。例えばサークル活動を現在の掲載ペースで紹介していきますと一回りするのに20年ほどかかります。これでは自分の子供が所属しているサークルの紹介記事を目にするのは宝くじに当たるようなものです。そこで、来年度7月号あたりからの予定ですが、紹介するサークル数を増やすことにしました。誌面の関係もありますので、4年間ですべてのサークルを紹介することを目標にしますが、そうならなかったときにはご容赦下さい。今回のご意見以外にも記事に対する様々なご要望をいただいておりますが、限られた予算・人員の現状ですべてのご要望にお応えすることはできません。それぞれが現状以上の内容にすることもかなり困難です。皆さんのご意見を参考にしながらできる範囲で改善していきたいと思っております。



My life situation	
住居:	下宿、常三島キャンパスまで徒歩3分
通学手段:	自転車
収入:	アルバイト ¥50000
	仕送り ¥100000
支出:	家賃 ¥50000
	光熱費など ¥20000
	食費 ¥20000